

柔軟な働き方を実現する和のスペース「北斎の間」

イノベーション推進を目指したくつろぎミーティング 兼 集中お籠りの空間の設置

ポーラ・オルビスグループのポーラ化成工業株式会社(本社:神奈川県横浜市、社長:釘丸和也)は、自由な発想のもと新しい概念や変革を生み出し、実践することを目指す「イノベル活動」の一環として横浜研究所内に和のスペースを作り「北斎の間」と名づけました。掘りごたつを備えており、仲間とリラックスして話し合える空間と、一人で集中して作業に没頭できる空間を兼ね備えています。2018年1月のオープン以来、アイデアの種が生まれる空間、沈思黙考の空間として活用されています。

なぜ和室なのか？

従業員同士が互いに心を開いて話せるよう、まるで自分の家にいるかのようにゆったりくつろげる空間を目指しました。

また、個人が作業に没頭できるデスクも併設しました。10時前および15時以降は、予約なしで自由に使えます。

「北斎の間」名づけの秘密

常に新たな技法を探求しその独自性や革新性で世界のアート界にも大きな影響を与えた浮世絵師、葛飾北斎にあやかりたいと考え名づけました。



「北斎の間」
ミーティングのみならず、キャリア面談などにも活用されています。
取材やおもてなしの場としても使われます。

背景となった「イノベル活動」について

「イノベル活動」とは、自由な発想のもと新しい概念や変革を生み出し実践することを目指し、自社の研究・開発・生産活動に対して行っている活動です。これまでに、社内外メンバーでのワークショップで視野を広げ発想力を養うとともに、従業員のクリエイティビティを促進するオフィス環境づくりを行ってきました。そしてこの度、よりいっそうコミュニケーションを活性化でき、集中して作業できる場を設けるに至りました。



「イノベル一む」

通りがかった人がディスカッションに飛び入り参加し、課題解決の糸口が得られることもあります。

イノベル活動におけるオフィス環境づくりについて

柔軟な働き方を実現するオフィス環境づくりの一環として、これまでも、四方の壁がホワイトボードになっているミーティングルーム兼ホール(アストロホール)や、明るい雰囲気のリビングルームタイプの部屋(イノベル一む)を研究所内に設置してきました。いずれも稼働率が高く、コミュニケーションの活性化に貢献しています。